



ゆずり葉

にのみや学園
二宮町立山西小学校
学校便り「ゆずり葉」
第118号
山西小学校 72-3777

遠足・校外学習のスタート!

「目的意識の大切さ」と学校教育への位置づけ

「行楽の秋」らしいさわやかな陽気が続く中、今月は2つの学年が遠足・校外学習に出かけました。子どもたちにとって、日頃の学校生活で経験できないことにかかわることができる貴重な機会です。

単なる行楽で終わらないよう、学校では、出かけるにあたって事前の計画や調べ学習、予備体験など、子どもたちと事前の準備をする中で目的意識を高めていきます。

そのような意識が醸成されることよって当日、たとえば、友達とのかかわりで思いやりや集団行動・公衆道徳を学んだり、現地の係員に勇気を出して尋ねてみたり、見学や体験活動を通して自然の雄大さや日常生活の便利さを実感したりと、様々なことを学んでいきます。

このような学びの考え方は、バスで遠くへ出かけるような機会だけでなく、教科学習の延長で近隣に出かける場合であっても同様です。しかし、学校で扱うべき教育内容が学習指導要領に則って盛り込まれている中、あまたの体験的な学習の意義は理解しつつ、なんでも採り入れることは難しいのが現

実です。時間的・財政的・学習内容の質的な視点などから学校教育全体のバランス、またはその中における位置づけ等を吟味したうえで、毎年、子どもたちの豊かな学びのために工夫をしています。

2年生の遠足

10月3日(火)、新江ノ島水族館に行きました。当日は遠足日和とはいえ、少々暑かったです。

「相模湾大水槽」では、大迫力で様々な生き物を目のあたりにし、みんな大興奮でした。イルカショーでは、イルカとトリーターさんとが日頃からのかわりで培ってきた関係性により見せる(魅せる)ことのできる、曲芸の数々に感心していました。ドルフィンキックや水上での宙返りには歓声が上がりました。

昼食後は、グループごとに計画や各自の興味に応じて自由に見学しました。その道中で生じた疑問を解決するべく、勇気を出して現地の係員さんに質問している子もいました。ゆったりまわる時間的な余裕もあり、大満足の様子でした。



5年生の校外学習(野外活動教室)

10月6日(金)、秦野市にある表丹沢野外活動センターで野外活動を行いました。「自分で」「みんな」で「責任をもって」の3つのねらいの達成に向けて、野外炊事、レクリエーション、クラフトの3つのメイン活動に臨みました。

【野外炊事】

カレーづくりです。ガスコンロやIHヒーターとは違って火力の調整は難しいですが、子どもたちは火が大好きです。どのグループも失敗しないで計画どおり作ることができました。青空の下でグループの友だちと食べるカレーは格別でした。



【レクリエーション】

各グループで出し物(クイズやゲームなど)を楽しみました。普段の生活では見せない「スイッチを入れた姿」を見せる子もいました。みんな協力して、素敵な出し物を作り上げました。みんなで盛り上げて、みんな楽しんでできました。



【クラフト】

どんぐりや木の実を使って「世界に一つだけのフォトフレーム」を作りました。与えられた素材だけでなく、周辺に落ちている枝や葉っぱを利用するなど工夫する子どもいました。



野外活動教室の学びをしっかりとふりかえり、次の活動へとつなげていきたいと思えます。

小中一貫教育の取組

〜 共通性で「一貫性」の視点から〜

上級生の姿から学ぶ

本校は日頃の授業実践を通じ、「一人も取り残されない、受容的な学級集団・学習集団」の基盤づくりを始めて4年目となります。6年生はその積み重ねがいちばん大きく、毎日・すべての時間とはいかないまでも、主体的に学習に取り組み、建設的な対話ができる集団に育ってきています。

ある日のこと、6年生は社会科で歴史を学んでいました。そんな姿を5年生が教室で目の当たりにしていました。

普段、他学年の授業を見る機会といえば、せいぜい学校行事や体育などの授業で場を共有するくらいですが、子どもたちにとって、それは視点を持つ

て意識的に観るというよりは「見える」「見て楽しむ」方が自然かもしれない。しかし、この日は明らかに「見学」すなわち「見て学ぶ」ために来ていました。

授業時間の半分ほど見学した後、自分たちの教室に戻り、担任の

先生からの「どうでしたか？」の投げかけから振り返りが始まりました。

初めのうちは6年生の「教室環境」「授業態度」の類の発言がされていましたが、次第に「発言の仕方」「発言の聞き方」「調べたところのまとめ方」「板書の特徴」など、6年生の学習スタイルへと本質的なところに意識が向いていきました。

授業の最後に、半年後の進級を待たずに「今からできること」をしていきたいことを個人のまとめとしてノートに書いていました。



先を具体的に見据えた低学年の指導

10月17日(火)、2年生の図工では、初めてカッターナイフで直線を切る練習をしました。授業では、まず使い方の基礎を学び、きれいに切れるよう学習しました。

最初は刃が斜めになってしまつてうまく切れなかった子ども最後には、安全にカッターナイフを使って、直線を切ることができるようになり、クラスごとにビルのような建物を作つて飾ることができました。

この授業では、二宮町の

小中一貫教育(図画工作・美術)の視点で、9年間を見通してカッターナイフの使い方の基礎を習得することを目指しており、町内の他の小中学校の先生が参観にられました。子どもたちの様子を見ながら個別にかかわってくださる場面も見受けられました。

中学校では美術の制作だけでなく、文化祭でスタンドグラスの制作にもカッターを多用しているようです。今後9年間を見据えて指導を進めていきたいと思えます。

